

追憶シリーズ わが学院の歩みの中から

校祖 ホーイ先生の生涯 (B)

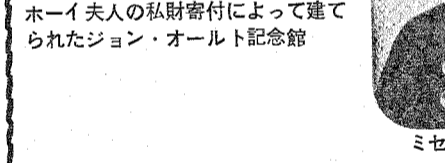
花 輪 庄 三 郎

パラで、押川、ハラ両先生三人で、最初の宣教師会議をひらしてホーイ先生のミッション・ス町で、押川先生の協力者の吉田龜の意見は全く偶然の出来ごとであり、合衆国リフォーメーション教会の日本支部の設立の抱負は、日本ミッシンが、今や日本の伝道は個人的な活動から学校教育を通じての伝道に転換すべき時勢に達しているとの見解、及び東北の中心地仙台にキリスト教学校設立の重要とを決議し、その第一事項に次のことを決議した。

「第一、一々の会談の中で旧知のような意気の投合を感じたので、同月二十一日、東京築地二八番館のクリンク邸に於て、クリンク・モル・ホーイの事せしむることを承認す。かくた、仙台の最初の居宅は、吉田龜先生の居宅である。」

かくて、同月二十一日、東京築地二八番館のクリンク邸に於て、同氏が過言と認むる事業に従って、宣教師は三十才の独身者であつた。仙台の最初の居宅は、吉田龜先生の居宅である。

現にいたく端々くられた想ひ、宗義、松田順平、田村兼蔵の六人を、北六番丁の角から西へ二軒目の一北学院寮の原野であった。時に民家を借り、伝道者養成の目的を、押川方義三六才、W.E.ホーイもって「仙台神学校」と名づける。一少費をひらいた。生徒は島貫兵衛、前記のよ、ホーイが仙台に大夫、早坂千之助、早坂實、橋本学校を設立する件は、東京にある



ホーイ夫人の私財寄付によって建てられたジョン・オールド記念館

「これよりさき、東北学院の母胎を伝へられているが、その中に「ジョン・オールド記念館」(John Auld Memorial Hall)と称した。この間、「仙台神学校」の本館が落成するまで、四年間の年月を要したのであるが、押川院長は、東北から北海道にかけての伝道旅行や欧米諸國の教育視察旅行等で、席のあたたまる暇とともなく、学内のことはホーイ、シュネーターの両氏にまかせ切りの状態であつた。本校舎建築の着手は二十三年秋、翌二十四年夏に竣工した。赤煉瓦造り、方形五層の塔及び円錐形ストリート屋根の円塔からなるゴシック式シャト風といわれる。極めて典雅な建築物で、明治・大正・昭和を貫いて仙台の美観であった。建築費九千円を要し、その一部は教員や神学生の寄附もあつたが、大部分は米國の外国伝道局の援助によるものであつた。



齋藤 静教授逝去

「英語大観」「英語と米語」「前置詞の研究」等々、数々の名著を世に出され、わが國英語学界の最高權威として学界から尊敬されてきた。

昭和六年八月、ジュネーブにおいて開催された「英語大観」の編集に、先生は博識な中にも、常に後進の指導に余念がなく、英語界の発展に余知立第三中学校教員を振り出し、教員界の人となり、福井県立大野中学校長、福井高専教授と累進され、その後長らく福井大学教授、兼図書館長をつとめられた。

この間に於て「英和辞典」「英和辞典」「英文法概論」「英文法通論」「アメリカ語の研究」「英語学研究」

昭和二十三年、新制高等学校並に同第二部を設置(四月一日)。

昭和二十四年、東北学院大学文経学部四年制を設置、英文学、経済学、社会学、心理学、教育心理学を置く(四月一日)。

昭和二十五年、出村剛院長就任(四月一日)。

昭和二十六年、小田忠夫同院長就任(四月一日)。

昭和二十七年、院長期は四カ年、学長校長任期は三カ年に改む(四月)。

昭和二十八年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和二十九年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十一年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十二年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十三年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十四年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

昭和三十五年、院長期は五十歳正期就任(四月)。

年表で見る 東北学院昭和史 (二)

年次	事項
昭和二十一年 (一九四六)	宮城首五郎工業専門学校校長就任(三月限)。 「東北学院専門学校」及び「同第二部」を設置(四月一日)。
昭和二十二年 (一九四七)	工業専門学校設置(三月限)。 八木山六十八万坪の校地入手の計画を起す(五月)。 専門部校舎増築木造二階建四教室竣工(九月三十日)。
昭和二十三年 (一九四八)	新制高等学校並に同第二部を設置(四月一日)。
昭和二十四年 (一九四九)	東北学院大学文経学部四年制を設置、英文学、経済学、社会学、心理学、教育心理学を置く(四月一日)。
昭和二十五年 (一九五〇)	出村剛院長就任(四月一日)。
昭和二十六年 (一九五二)	小田忠夫同院長就任(四月一日)。
昭和二十七年 (一九五三)	院長期は四カ年、学長校長任期は三カ年に改む(四月)。
昭和二十八年 (一九五四)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和二十九年 (一九五五)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十年 (一九五五)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十一年 (一九五六)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十二年 (一九五七)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十三年 (一九五八)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十四年 (一九五九)	院長期は五十歳正期就任(四月)。
昭和三十五年 (一九六〇)	院長期は五十歳正期就任(四月)。